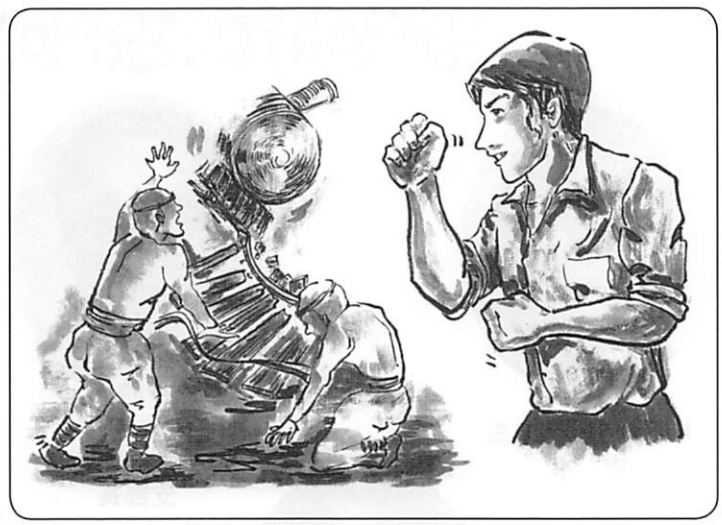
松山市教育会情報

発行所　松山市教育会
松山市祝谷町1-5-33
☎ 089－933－0354
発行責任者　田中　務
編集　調査研究部

今でしょ!!　教育会

副会長
芳野安隆



―汽笛、第一声ひびく―
「ふるさと松山」挿絵より

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、昨年末の「新語・流行語大賞」では、「じぇじぇじぇ！」「今でしょ！」「倍返し」「お・も・て・な・し」の異例の４語が選ばれて話題になりました。80年代のアイドルがクローズアップされるなど、まさに「じぇじぇじぇ」な結果でした。ＣＭから誕生した「今でしょ！」は、決断をする際の「後押し」として、さらに連続ドラマ「半沢直樹」の「倍返し」も世の中に浸透しました。東京五輪誘致活動の最終プレゼンテーションで日本文化のすばらしさをアピールする際に使った「お・も・て・な・し」は、四国の文化を代表するものと言えます。これらの流行による人々の求心力には、驚くべきものがあります。

このような流行に対して、地道に着々と成果を上げてきたものも多くあります。教育文化の振興に寄与し、未来を担う子どもたちを育成する教育の分野で社会貢献をする「教育会」もその一つです。松山市教育会の会員は平成26年１月８日現在、2,203名、退職会員1,055名、賛助会員27名の計3,285名を数え、松山市教育会だけで県教育会の４分の１にもなります。

本年度は、８月８日に「保護者対応」、８月12日に「道徳教育」の教育講座を開催し、多数の現職・ＯＢの参加を得て盛大に開催することができました。また、11月９日「えひめ教育の日」の一環として行われた「まつやま教育フォーラム２５」では、「人形げきや　おたこ組」による公演があり、深い感動をいただいた一日でした。９月から、囲碁将棋教室も開催されています。このように、松山市教育会は現職教員と退職教員が集い、経験豊かなＯＢの皆さんから学ぶ場、共に学ぶ場となっています。これからも、さらにＯＢ・現職教員の皆さんの絆を強め、より有意義な会となるよう企画していきますのでご期待ください。

教育会で学び、楽しく活動するのは？？・・・・「今でしょ！！」

皆さんの活動への積極的な参加をお待ちしています。

平成25年度 報賞者
松山市教育会

堀田　優子 先生
理　事

（余土支部）
八木　　巌 先生
支部長

（久米支部）
佐々木　栄 先生
支部長

（みどり支部）
片岡喜代見 先生
支部長

（立岩支部）
山崎イツミ 先生
支部長

（宮前支部）
青野　真礼 先生
事務局長

（生石支部）
岡　　秀明 先生
事務局長

（道後支部）
松本　賢司 先生
事務局長

（正岡支部）
田中　祐子 先生
事務局長

（石井東支部）
宮田　賢英 先生
事務局長

「えひめ教育の日」記念事業

「まつやま教育フォーラム25」高齢慶祝者（傘寿）名簿

	氏　名	支部		氏　名	支部
傘寿	京口和雄　様	味酒	傘寿	中田英夫　様	小野
傘寿	川井　正　様	味酒	傘寿	平松清一　様	石井
傘寿	野本明男　様	八坂	傘寿	山口　登　様	荏原
傘寿	白石東洋女　様	東雲	傘寿	森　皓三　様	荏原
傘寿	栗林弘一　様	新玉	傘寿	宮田義行　様	椿
傘寿	永野啓造　様	雄郡	傘寿	池内多喜　様	石井東
傘寿	山下雅司　様	素鵞	傘寿	一色　功　様	味生第二
傘寿	馬嶋治男　様	堀江	傘寿	川口　仁　様	さくら
傘寿	大城カズ子　様	堀江	傘寿	藤田正博　様	さくら
傘寿	久保田公夫　様	堀江	傘寿	中村　衛　様	みどり
傘寿	井上チトシ　様	潮見	傘寿	高木さつき　様	双葉
傘寿	作道昌宏　様	潮見	傘寿	石橋義勝　様	正岡
傘寿	松本吉弘　様	和気	傘寿	西原玲子　様	正岡
傘寿	椿原淳子　様	桑原	傘寿	堀本昌子　様	北条
傘寿	藤内許子　様	生石	傘寿	北尾玲子　様	北条
傘寿	松友嗣文　様	道後	傘寿	高木　毅　様	北条
傘寿	森　慎一郎　様	伊台	傘寿	稲田晶子　様	北条
傘寿	武井重治　様	浮穴	傘寿	白石俊明　様	河野
傘寿	阿部守雄　様	小野	傘寿	野本律子　様	河野
傘寿	三木正三　様	小野			

思い出の学校

小田深山中学校の冬の思い出

平　松　清　一（石井支部）

昭和３５年教諭採用となって着任したのが、生徒数１８人５級へき地の小田深山中学校であった。２学級を３人の教師が担当、私は社会・数学・技術・体育の４教科の授業を受け持った。毎晩遅くまで教材研究に追われた日々であった。

その標高８５０ｍの小田深山中学校での冬は忘れられない。古びた民家をそのまま教員住宅にしたので、あちこちの戸がきちんと閉まらない。その空き間から粉雪が舞い込み、うっすらと室内に雪が積もる。マイナス１５度の寒い朝、前の晩にしかけた電気釜のごはんは、自動スイッチが入ったのかカタカタと音を立てて氷が水になる。やがて沸騰してご飯が炊ける。３０分は余分にかかる。じゃがいもは凍ってカチカチである。金鎚で割ってそのまま味噌汁にする。多少泥が混じっていたかもしれないが、その味噌汁は美味だった。

雪の中のまき引き作業

その日は体育の授業。体育館もないのでストーブ用のまき引き作業をする。雪の中に埋まっている１ｍほどのかしやくぬぎの木をストーブに入れやすいように３０㎝程に鋸で切る。生徒たちは家でやっているので手際がよい。生徒たちと共に汗を流したまきで燃やす教室のストーブの暖かさは、ほのぼのとしたものであった。

その小田深山小中学校は平成８年廃校となった。

美川中学校での思い出

山　口　　登（荏原支部）

今年傘寿を迎えた。当時２４歳、５６年も前の二月頃のことである。

その夜、私は宿直で学校に泊った。早朝に起きてみると大雪、グランドは一面７０㎝は充分あり歩けない。当然臨時休校となる。

その夜出張懇談会が予定されていた。美川スキー場のあった大谷という地域で、学校からも一番遠く片道８㎞の山道を生徒たちは通学して来ていた。

校長先生が電話で地区の方に延期の連絡をしたところ、「今日は雪で仕事にならんから、みんなおるけんな、子どもが通いよる道も先生らも一ぺん歩いて来てみてくださいや。」の返答。「仕方ないけん行かんといかん。」―雪中行軍のように出発した。

「一番若いおまいが先頭じゃ。」「その足跡を後の者が踏んで進むんじゃ。」一歩一歩６人が雪を踏みしめて山道を進んだ。疲れても腰をおろして休む所などはない。３時間半位はかかったと思う。地区の集会所にたどり着いて、いろり端に腰をおろして感慨ひとしおであった。

山の子は、毎日しっこりしっこりと自分の足で歩いているのだと実感できたし、忍耐強さが身に付いてくるのだと思った。

この地区から私のクラスの女生徒の一人は９か年皆勤の者もいた。

時代は変わった。雪の量も変わった。道路も変わった。学校と集落との距離は変わらないが、今はどんなにしているのだろうか。

青年教師時代の忘れられない想い出の一日だった。歳月不待人。

参川小学校

作道昌宏（潮見支部）

昨年九月の中頃であったか、本年度末をもって、参川小学校が閉校する旨の連絡を頂いた。驚きと共に寂しさを感じている。明治七年以来今日まで、１３９年の輝かしい歴史と伝統を築き、多くの優秀な人材を世に送り出している。

参川小学校は二度の赴任。それも、新採用教員としての５年間、新採用校長としての３年間、計８年間お世話になった。平成元年、校長として二年目、学習指導要領が告示されるという記念すべき年、参川小学校１１５周年の、記念行事が行われたのも大きな思い出の一つ。

親子二代にわたっての子どもたちの様子から、「あ、Ａくんがいる。Ｂくんがいる。Ｃさんもいる。」新採用教員時代のお子さんである。瓜二つ。しぐさまでもよく似ている。血はあらそえない。永久不変な自然に比べて、懐かしい歳月の流れを感じたものだった。

人情味豊かで、質実・勤勉な校区住民。純真・素直で明るい子どもたち。当時のアルバムを見るにつけ、懐かしい思いで一杯である。山の傾斜に点在する集落の手入れの行き届いた田畑。また、寸分の狂いのない石垣は、実に山々に調和した人工美である。そんな地域で育まれた子どもたちは、あいさつがよくできる。純真・素直で明るさを持っており、なんでも気安く話しかけてくる子どもたち、そんな特性を持っている。その反面、外部からの刺激の少ないせいなのか、どうもおっとりしていて、授業となると活気がない。だが、スポーツとなると目の色が変わってくる。特に、剣道への熱の入れようは大したもので、子どもたちの過半数が入部していた。水、木の夜の体育館は、割れんばかりの熱気が漂っていた。それを見守る親の顔も真剣そのもの、剣道親の会を結成し、各種大会にほとんど参加。その活躍ぶりもたいしたものであった。校長室に、でんと据えた大優勝旗・盾は、自慢の一つであったこと思い出す。栄光に映え、静かに消えゆく参川小学校。「バンザイ」

「心に残る書・画」～道後小学校の思い出～

山下雅司（素鵞支部）

偉大なるものは嵐の中に育つ

書家の林克山先生が昭和３３年度の道後小学校の卒業生に、卒業記念として贈られたものである。随分傷んでいるが、何故か心に残っている。戦後間もなく生まれた彼らに苦難に立ち向かい、己を拓き逞しく生きてほしいとの願いであったろう。その卒業生はもう６７歳、各々の人生を拓いているに違いない。また、克山先生は童詩作家でもあり、童詩「母馬子馬」は昭和９年国定教科書国語科５年生用に掲載された。

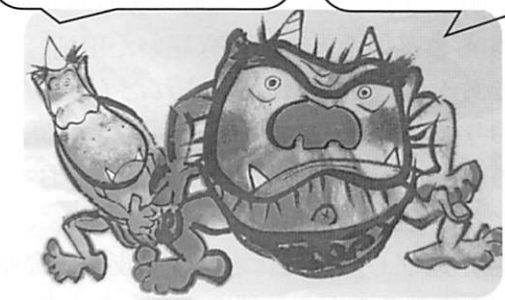
中日両国人民世々代々永遠友好下去

１９８４年、中日友好訪日代表団王震団長以下１６名の訪問があった。当日は、学校全体が熱烈歓迎色に染まっていた。殊に、茶道クラブ員のお手前の接待には団員の皆様ご満悦の様子であった。そしてこの絵を頂くことになった。絵には道後小学でなく道厚小学とある。中国語に詳しい人から、道に厚い学校、もてなしの心の学校と受け止めればいいとの言葉を頂き感激した。この絵の想いが、今の日中関係に通じることを願うこの頃である。

『えひめ教育の日』記念事業
〈まつやま教育フォーラム25〉講演会

一本角の青鬼**ひょう六**。アニイを親のように慕いのびのび育った。だが鬼らしくない。

二本角の赤鬼で、鬼の世界をたくましく生き抜いてきた**アニイ**。



Ｈ２５．１１．９（土）　文教会館にて

『 ほっかむり ひょう六 ～旅立ち編～ 』

『人形げきや　おたこ組』（代表　立田卓也氏）と先代「ぷか」さんをお迎えし、公演をしていただきました。劇に一役を担って参加した会員を含め、会場は一つの大きな渦に包まれました。幻想的な世界観を味わう中で、会員一人一人の心が揺れ動いたひとときでした。

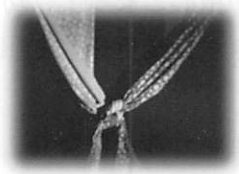
〈STORY〉

「いにしえの昔から、わいら鬼はお山の守り神さんなんや。ええ世の中やったんや。それがなんや、今では人間どもが我がもの顔でやってきよって、荒らしにきよる。」これがアニイの悩みの種。そして、もう一つの悩みは、いつしか人間世界に興味をもつようになったひょう六のこと。「おまえは鬼や、人間と関わったらあかん！」と厳しく諭す。実はひょう六の親は人間に・・・口が裂けても言えない。

一方、人間の世界では、不治の病の母を抱え、一生懸命水汲みを手伝う親孝行な女の子ソメ子。心優しいソメ子を一目で好きになったひょう六、二人は友達になる。

「鬼の角を煎じて飲ませるとどんな病も治る。」と庄屋さんに言われ、「角をもらえないか。」と頼むソメ子。ソメ子の悲しみが我がことのように思えるひょう六は、アニイに角一本を分けてくれと頼むが断られる。ひょう六は・・・。

ある日、頭にすっぽりと“ほっかむり”をしたひょう六が。
「ひょ、ひょう六よ。おまえ、角は・・・。」
「アニイよ。わい、旅に出たいんや。この目でいろいろな世界を見たいんや。」と。



旅立ちのとき。鬼の世界、人間の世界、物語の始めには重なることなくそれぞれに固く結ばれていた二枚の布が、合わさって一つに結ばれた。二つの世界が一つに・・・。
心の奥底まで揺らす和太鼓の響きの中、ひょう六は旅立ちました。

「人形げきや　おたこ組」情報

16年前、当時の広田村高市に生まれた日本一小さい『人形劇や　ぷか』の劇団員は、「ぷか」さんと「さら」さんの二人だけ。平成20年、２代目「ぷか」さんがこの人形劇を引き継ぎ、４年間。
そして今年４月、『人形げきや　おたこ組』と改名し、新たな出発をされました。現在のメンバーは、ご主人の「おたこ」さん、奥さんの「ぷかりん」さん、小学校４年生「くす」ちゃん、１歳の「ふきと」くんの家族４人。
お呼びがかかると、家族４人、愛車に乗ってどんな遠くにでも出掛けます。

〒791－2204　伊予郡砥部町高市1422
TEL・FAX　089－969－2339
Email　pukarin09@ezweb.ne.jp

参加者の声

○　聴く講演会ではなく観劇を通して考えるとのこと、楽しみにして参加しました。思った以上の迫力に、またこうした機会をいただきたいと思いました。

○　間近で本物に触れて迫力を感じました。おたこぐみさんは「劇団ぷか」さんとして以前から知っていたのですが、久しぶりに観劇させていただきました。ご家族ぐるみでの表現者としての真摯な生き方が伝わってきました。テーマも深く、人権教育の視点からもいろいろ考えさせられました。信じ合うこと、真心をもって違う者同士がつながり合うことなど広く、子どもたちにもぜひ見せたい内容でした。ありがとうございました。

○　意地悪な一役を担って、劇に参加させていただきました。短い台詞なのですが、誰に向かって言う言葉か、語尾は上げるか下げるか･･･。台詞を実際に口にすると、攻撃する者、意地悪と言う者、無関心の者、そのどれもが自分の中にあるように思えました。劇に引き込まれると同時に、自分と向き合う時間になりました。

ブロック紹介

第４ブロック理事　田中　勝

第４ブロックは、三津浜（三津浜小・三津浜中）、宮前（宮前小）、高浜（高浜小・高浜中）、興居島（興居島小・興居島中）、中島（怒和小・津和地小・中島小・中島中）の５支部からなっております。本ブロックは、会員数が減少してきており、かつ高齢・病弱の会員が多いため、大勢が集まって活動をすることが困難な状況にあります。理事の選出は、輪番で２年ごとに行っており、昨年度と本年度は高浜支部から理事を選出しております。昨年度は、高浜支部が中心となって、坊っちゃん劇場の観劇をする計画をしましたが、うまく参加者を集めることができず、変更をして懇親会を行いました。

今年度は、昨年度の反省から、近くて集まりやすい場所で懇親会をしようということになり、高浜地区の松風亭で情報交換並びに懇親会を実施しました。高浜港や電車の駅からも近くにあるため、比較的集まりやすい場所であろうと考えました。当日は、OB 会員が７名と現職会員が９名の合計１６人の参加がありました。自己紹介をしたり、情報交換をしたりしながら楽しく歓談をすることができました。

本ブロックは会員が集まりにくい状況にありますが、ブロック活動を継続することで、気楽に集まることができるようにしたいと考えています。今後は、少しずつ交流を深めながら活動を広げていきたいと考えています。

「わいわい三水会」の活動について

第１ブロック理事　落合　常章

本ブロックは、番町・八坂・清水・姫山・味酒・東雲の６校区から構成されています・会員数１５４名からのメンバーですが、単一の支部活動は、ご多分にもれず少数高齢化の波をもろにかぶる現状で、なかなか活性化不可能の状態にあります。

そこで、今年度から、ブロック全体で何かを計画してみることになりました。それが、「わいわい三水会」の名称となり、各校区の石碑や史跡巡りを各月の第三水曜日にワイワイガヤガヤ言いながら歩こう会を計画した次第です。

四月から天候に恵まれ、順調に進み、既に９回目となりました。参加していただく会員も最低１０人、多い時は１５人を数え、見知らぬ人から、知る人へと変わり、まさにわいわいと会話も弾むようになりました。

知っているようで知らない街、聞いたことはあるが見たことがない、そんな松山の、歴史の重みを知り、また、先人の苦労や努力があったことを知り、回を重ねるごとに知識が増えていくことを実感しています。我々にとって覚えることは良いことです。一つ覚えて二つ忘れる今日この頃、この活動は脳の活性化にも役立っていると確信しています。小さなことからこつこつと努力することが我が教育会の活性化の一つになればと信じ頑張っています。

乞う、多くの参加を！　体力の衰えは足腰からです。歩いて新鮮な空気を味わい、少しでも健康な期間を長く保ちましょう。生涯学習をすることにより、「誕生日、ローソク吹いて立ちくらみ」にならないようにしたいものです。

〈活動例〉
城山の黒門、二之丸散策
松山城の植物観察会
樗堂の句碑など味酒校区文化財めぐり
明教館など東雲校区文化財めぐり
など